



2015年度

君に薦める一冊の本

大阪工業大学図書館 | 2016.03.31 発行



『竜馬がゆく』 1～8 司馬 遼太郎 著 / 文春文庫

大宮本館：913.6//S

枚方分館：080//B

1 (91991179)	5 (91040854)	1 (98020478)	5 (98020482)
2 (91991180)	6 (91991184)	2 (98020479)	6 (98020483)
3 (91991181)	7 (91991185)	3 (98020480)	7 (98020484)
4 (91991182)	8 (91991186)	4 (98020481)	8 (98020485)

NO
PICTURE

司馬遼太郎作『竜馬がゆく』を君に薦めたい。その理由は、(1)若者の成長物語で、君の年齢に近く君が理解しやすいだろうこと(2)鎖国末期混乱の時代に、世界を視野に入れ大胆に生きた人間に、君も勇気づけられるだろうこと(3)単純に読んで楽しいこと、の3つです。

この物語の主人公竜馬は、子供のころ「寝小便たれ(土佐弁よばわたれ)」とからかわれ、泣かされては家まで泣いて帰る弱虫だったとあります。その少年が、どのようにして、日本を開国・明治維新へと導いた立役者に成長したのか、皆さんは関心がないですか?この本を読むと、それが徐々に分かります。

当時、日本も道を誤れば、清国のように西欧列強の植民地になっていたかも知れないのです。それにいち早く気がついて開国を唱えていた勝麟太郎を、切るつもりで訪ねたもののその場で弟子になり、それ以来、常に世界を意識して世界の海原に船を走らせ貿易をする夢を見ていたのが、竜馬です。その一方で、実務的でもあったことが、薩長同盟や大政奉還を成し遂げることを可能にしました。さらに、剣術ではかの桂小五郎を負かすだけの腕前、愛嬌がある笑み、ものの真髄を読み取る能力と、人を虜にする不思議な魅力などを持ち合わせていたようです。

もちろん、君も私も竜馬になれません。ただ、竜馬のように、変貌する可能性は秘めているのです。これを読んで、日本だけでなく世界を意識するようになってほしい、世界の出来事に関心を持ってほしいと思います。なぜなら、このグローバル時代、私たちはもう世界の他の国々と共存することでしか国としても人としても継続できないからです。視野を広く持って、竜馬のように世界との関わりの中で日本を見る姿勢を持ってほしいと思うのです。

最後の、読んで楽しい点は、本文の引用で感じてもらいましょう。司馬遼太郎のペンのすべり具合はすこぶるいいのです：

なかまの一人が障子をあけてみると、竜馬がのっそり立っていた。一同度肝をぬかれたのは、その姿だった。ふんどし一本の素裸で、右手に大刀をつかんでいる。(注：おまけに、体中に油を塗っていたが、周りは気づいていなかったらしい)

「何じゃ、坂本、そのかっこうは。人を嘲齋坊にしくさるか」

「おれは、馬鹿(べこのかあ)じゃけんのう。べこのかあがべこのかあどもを退治るのは、このかっこうが一番ええ」

「ちえっ、このべこのかあめ」

せまい部屋に土佐ことばの罵声がはんらんしたかとおもうと、なかまの一人が行燈を消した。まっくらである。

「かかれっ」

わっと竜馬に飛びかかった。(中略)

多勢を相手にするときは、組みついては自滅する。竜馬はもっぱら、こうがんを蹴ることにした。このため悶絶する者も出た。

四半刻ばかりどたばたとさわいでいるうちに、どの者も闇のなかでへトへトになった。

(中略)

「竜馬を伏せたぞ」

ふとんで蒸し、みなで乗りかかった。(中略)

「もうよかろう。あかりをつける」

(中略)

一同、貰巻きにしたふとんを解いた。なかから半死半生で出てきたのは、謹直な武市半平太であった。竜馬が闇の中で半平太をねじ伏せ、身代わりの貰巻きにしてしまったのである。

「御一同、ひかえなさい」

不機嫌な声で半平太はどなった。竜馬はこそそと部屋を出て行った。(第1冊 86-87頁)

茶目っ気があるというか、機転がきくというか、ずるいというか。それでいて憎めない竜馬の横顔が、こただけでなくいたるところに現れます。楽しんでください。

※図書館報『ばびろにくす』第99号にご寄稿いただきました。

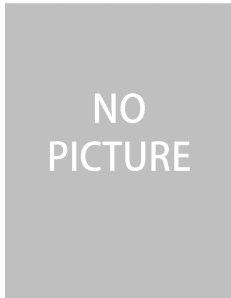


機械工学科 橋本 智昭 先生 推薦

『数学名言集』

ヴィルチェンコ 編 松野 武 山崎 昇 訳 / 大竹出版

大宮本館：410.4//V (19502839)



数学者のさまざまな人生哲学がぎっしりとつまった内容豊富な著である。本著から数学者がどのような価値観をもって、人々の世界をどのような景色でとらえているかを垣間見ることができる。何事も考えることから始まる。本著を通して、考えて生きるということを自身で見つめ直し、そこから生まれる思考をエネルギーに変えて行動すれば、より良い未来が待っているはずである。



知的財産研究科 杉浦 淳 先生 推薦

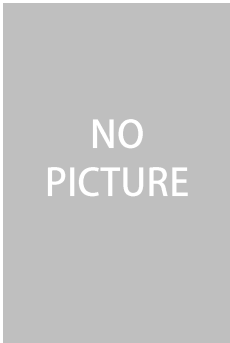
『ローマ人の物語』(全 15 巻)

塩野 七生 著 / 新潮社

大宮本館：232//R

枚方分館：232//R

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 ローマは一日にして成らず (10403060) | 1 ローマは一日にして成らず (89901338) |
| 2 ハンニバル戦記 (19305601) | 2 ハンニバル戦記 (89901339) |
| 3 勝者の混迷 (19406771) | 3 勝者の混迷 (89901340) |
| 4 ユリウス・カエサル ルビコン以前 (19504515) | 4 ユリウス・カエサル ルビコン以前 (89901341) |
| 5 ユリウス・カエサル ルビコン以後 (19600318) | 5 ユリウス・カエサル ルビコン以後 (89620197) |
| 6 パクス・ロマーナ (19703341) | 6 パクス・ロマーナ (89901342) |
| 7 悪名高き皇帝たち (19904346) | 7 悪名高き皇帝たち (89901343) |
| 8 危機と克服 (19905553) | 8 危機と克服 (80001046) |
| 9 賢帝の世紀 (10006180) | 9 賢帝の世紀 (80002704) |
| 10 すべての道はローマに通ず (10403648) | 10 すべての道はローマに通ず (80102967) |
| 11 終わりの始まり (10306633) | 11 終わりの始まり (80202185) |
| 12 迷走する帝国 (10306075) | 12 迷走する帝国 (80401870) |
| 13 最後の努力 (10407777) | 13 最後の努力 (80701377) |
| 14 キリストの勝利 (10507368) | 14 キリストの勝利 (80701378) |
| 15 ローマ世界の終焉 (10604795) | 15 ローマ世界の終焉 (80701379) |



人間とは何か、国家とは何か、そして今の時代を自分がどう生きたいのかを問うときに読んでほしい本である。

全 15 巻の何れの巻から読み始めても差し支えないが、若い読者には、先ず『ユリウス・カエサル ルビコン以前 IV巻』を読むことをお勧めしたい。カエサル(シーザー)の世界を駆け巡る戦いを通して、グローバル化時代を生き抜くための国家と個のあり方が、「物語」として、大変わかりやすく描かれている。また、本著の特徴である優れた人間洞察の一つとして語られている「カエサルはなぜ女性にもてたのか？」の一説は男性必読であろう。

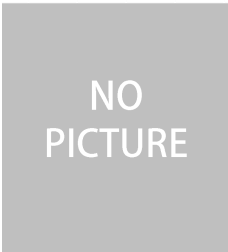
本著は単なる歴史書ではなく、人類史上最も偉大な国際国家「ローマ」を一般の日本人に伝えるものとして大きな価値を持つ。工大諸氏には、本著には『すべての道はローマに通ず X巻』として国家における社会インフラの重要性を説く巻があることも付記させていただく。





『宇宙からの帰還』 立花 隆 著 / 中央公論社

大宮本館：538.9//T (91151417) 枚方分館：080//C (98151431)



まずは、パピロニクス第 100 号発刊、おめでとうございます。関係者みなさまの努力の賜物だと思います。「桁」がひとつ上がるのは大変なこと。ヒトは指が 10 (=5×2) 本あるので 2 乗の 100 号ですが、4 本指の宇宙人では 64 号が記念号。次は 6 本指宇宙人の記念号に向けてエールを送らせていただきます。

さて、「一冊の本」だが、宇宙人も（強引に）出てきたこともあり、今回は立花隆氏による「宇宙からの帰還」を紹介したい。1983 年（文庫版は 1985 年）に出版され、30 年以上も書店に並んでいる本だが、自分自身はこれまで宇宙物理学を研究してきたにもかかわらず、天文少年でもなく、宇宙飛行士への野望があったわけでもなかったの、つい最近まで手にしてこなかった。ところが、昨年度から工学部 2 年次の PBL 科目『宇宙・地球・生命』探求演習で火星移住計画をテーマにして授業を始めたので、これくらいは読んでおかないといけない、と考えを改め読み始めてみた。そのときはこのような書評を書いてみなさんにお薦めするとは夢にも思っていなかった。

内容は NASA のアポロ計画やスペースシャトルなどで宇宙飛行士として宇宙へ出かけ、そして帰還した人たち（アメリカ人）へのインタビューだ（巻末には日本人宇宙飛行士の野口聡一さんとの対談がある）。通常、こういうテーマだと理系的な内容が多くなるが、そこは立花隆氏だけのことはあって思想、芸術、心理学やビジネス、女性関係にいたるまでその質問内容は多岐にわたり、その語り口も読者を飽きさせない。実際、私自身もロケットよろしく一気に読んでしまった。宇宙飛行士というと日本では人間的に魅力があり立派な人というイメージ（実際にそうである）が強いが、昔のアメリカ人飛行士たちはそんな感じではなく、「欲望のままに」といっては言い過ぎかもしれないが、その人間性についても興味深く描かれている。

「神との邂逅」や「宇宙空間では頭が良くなる」など、具体的なことはお楽しみにしておくけども、ひとつだけ書かせていただくと、宇宙から青い地球を見たときに彼らのほぼすべてが同じく思うことがあるそう。それは「宇宙から見た地球には国境などなかった」ということだ。対立、紛争、殺し合い…、すべてがバカげていると、地上では国々や国内での問題が絶えない。以前より増しているかもしれない。しかし、そこには地図に描いてあるような線はないのだ。これは真実だ。究極のグローバルな視点だと思う。神様がいたとすれば、わたしたち地球人をこのように見ているのかもしれない。

最近の技術進歩を考えると、あと 2、30 年もすれば（少しお金を出せば）普通に宇宙旅行や火星に行けるのだろう。宇宙から国境のない地球を眺めることができるはずである。そのときのためにみなさんもこの本でちょっと予習しておいてはいかがだろうか。

※図書館報『ぱびろにくす』第 100 号にご寄稿いただきました。





ロボティクス&デザインセンター 上田 悦子 先生 推薦

『不格好経営 -チーム DeNA の挑戦-』

南場 智子 著 / 日本経済新聞出版社

大宮本館：336.3//N (91131416)

NO
PICTURE

インターネット業界大手企業である DeNA の取締役会長・南場智子氏による、会社創業の話である。彼女を中心としたチーム DeNA の悪戦苦闘ぶりが、面白くテンポよく書かれており、とても読みやすい。「今を起点にベストを尽くす。過去を悔いても仕方がない」「意思決定において正しい選択肢を選ぶことは当然重要だが、それと同等以上に選んだ選択肢を正しくすることが重要」など生き方のヒントになるフレーズも多く、この本から刺激を受けて、さまざまな挑戦を試みてもらいたい。



ものづくりセンター 三木 一隆 先生 推薦

『錯乱』

池波 正太郎 著 / 春陽堂書店

大宮本館：913.6//I (91011258)

NO
PICTURE

人生の糧となるような図書ではありませんが、気軽な読み物として、池波正太郎著『錯乱』をお薦めします。

今年のNHK大河ドラマは「真田丸」。主人公の真田幸村（信繁）は戦国時代の太閤方武将としてご存知の皆さんも多いでしょう。私の出身地信州上田では地元の英雄として今でも人気の人物です。しかしその兄真田信幸も実は、幸村に並ぶいくさ上手な武将で、徳川の天下になった後は90歳を超えるまで領国経営に手腕を発揮した名君として、知る人ぞ知る存在です。

真田ものといえば池波正太郎、その彼の直木賞受賞作で、信幸についてオモシロ時代劇風に書かれています。

勉強の合間の息抜きにどうぞ。



総合人間学系教室 松田 紀子 先生 推薦


『「伝わる英語」習得術 理系の巨匠に学ぶ』

原賀 真紀子 著 / 朝日新聞出版

枚方分館：081//A//190 (98090475)

NO
PICTURE

理系の方は社会に出てからも英語と付き合いしていく必要があるといわれて、「正直、苦手だなあ。」と思った方、実はそれは当然のことかもしれません。この本を覗くとその理由の一端が分かります。この本は理系で著名な6名の方（養老孟司、隈研吾等の各氏）が、否応なく英語と格闘する中で得られた知見を、ご自分の研究領域と絡めてお話しされたものです。広い視野をもつ各氏から、英語と上手に付き合うヒントを学べると思います。

- 
- ◆ 教職員の方々からおすすめ本を紹介していただきました。
忙しい日々の合間に、ぜひ手に取ってみてください。
 - ◆ 所蔵がない本は、他館から取り寄せることができます。
詳しくは、メインカウンターにてお尋ねください。